

第17回釜ヶ崎講座学習会

沖縄・在日
そして釜ヶ崎

反省と運動

一緒に考えてみませんか？

2020年12月5日 土

18:30~21:00

先着45名(申込不要)

※新型コロナウイルス感染予防措置にご協力願います※
(検温、マスク着用等)

資料代: 500円

話題
提供者

福田 佳昭 (虹の会おおさか事務局)

DVD
上映

『ハンセン病療養所で受けた私の被害
—断種・墮胎—』(30分)

会場

太子福祉館

大阪市西成区太子1-4-3 太子中央ビル3階
JR「新今宮」駅東口 徒歩2分
大阪メトロ「動物園前」駅6番出口 徒歩1分

主催: 釜ヶ崎講座

大阪市港郵便局私書箱40号
大阪市西成区萩之茶屋1-9-7釜ヶ崎日雇労働組合気付け

TEL 090-2063-7704 (事務局) Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

HP <http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

ハンセン病問題
から何を学ぶか

当日YouTube
ライブ配信予定

希望の方は、
メールアドレスを
←講座Mailまで!!
詳細は裏面

私たちの近くで暮らす回復者の多くは、障害をかかえた高齢の単身者です。家族はいませんか？
なぜでしょう。国の棄民政策・絶滅政策がここにあります。
子どもを持つことすら許されなかった、彼ら彼女らの苦しみ悲しみの声に耳をかたむけてください。

全国にはハンセン病の国立療養所が13ヶ所あります。入所者は現在約1200人、平均年齢は87才を超えています。

隔離の“島”・療養所には納骨堂があり、かつては火葬場もありました。国は病気の根絶政策ではなく、「強制収容・絶対隔離」を根幹とした患者の絶滅政策を取り続けたのです。

この絶滅政策を地域で強力で押し進めたのが私たち市民でした。各県で競うように警察に密告通報し、見つけ出せば収容所に送り込みました。有効な治療薬が見つかり、障害を残すことなく治る病気となった戦後もこの「無らい県運動」は続けられました。私たち市民は加害者であり続けました。国の恐怖宣伝「らい」は恐ろしい病気だ一に騙され、患者に塗炭の苦しみを負わせました。この大きな反省の上に私たちの活動があります。

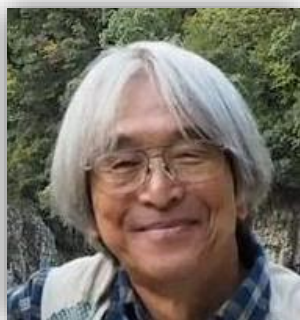
一方収容された人々は、人間らしい生活を求めて苦しい闘いに立ち上がっていきます。時には命をかけてハンストの闘いを続けます。1920年代、大阪にあった公立療養所外島保養院で獲得した自治の烽火は全国の療養所へと広がっていきました。大阪は解放運動の先端にありましたが、特高警察と室戸台風によって壊滅してしまいます。しかし、自治を求める運動、隔離からの解放を求める運動は戦後へと引き継がれていきました。

昨年、判決が確定した家族訴訟の原告561人の約半数が沖縄出身者でした。また、朝鮮半島出身者の患者は人口比にして日本人の数倍から10倍にのぼると言われています。このことを指して、愛生園の故金泰九さんは「ハンセン病は植民地病だから」と言われました。ハンセン病問題から沖縄や在日を考える意義は大きいと思います。

さて、釜ヶ崎はハンセン病病歴者にとって一種のアジールでした。収容所を抜け出した人々にとって、西成に行けば仕事がある、障害があっても雇ってもらえる、ドヤにだって泊まれる、そんな情報が療養所内にありました。

釜ヶ崎は彼らにも大切な街でした。

あらゆる差別が凝縮したハンセン病問題をここ釜ヶ崎でともに考えることに感謝しています。



福田 佳昭 (虹の会おおさか事務局)

1948年大阪市西成生まれ。学生時代に釜ヶ崎越冬闘争にかかわり、以来日雇労働に従事。現在、NPO法人釜ヶ崎支援機構の副理事長を務める。1975年野村芳太郎監督作品映画『砂の器』をきっかけに、ハンセン病問題に関わる。ハンセン病違憲国賠訴訟裁判、家族訴訟裁判、菊池事件判決、及び付随する東京行動、厚労・法務・文科の3省協議会にも参加。虹の会おおさか(ハンセン病回復者サポーターズ)事務局長、ふれあい福祉協会ふれあい相談員、社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会ハンセン病回復者支援センター、ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会賛助会員。

当日YouTubeライブ配信予定！！(ライブ後も視聴できる予定)

ご希望の方は、前日12月4日(金)までに、連絡先メールアドレスと「ライブ配信希望」の旨を釜ヶ崎講座(kamakouza@cwo2.bai.ne.jp)までお送りください。当日18時20分すぎにURLをお送りします。